



私を解放してくれたアートの世界

3色パステル画寺子屋の変貌と

日本画の道への挑戦

自由画ひろば寺子屋主宰 二口 孝絵

3色パステル画寺子屋の歩み

2017年より、3色パステル画寺子屋を、色々な事情を抱えた子どもたちや大人の居場所作りを目的として6年間続けてきました。3色パステル画（正式名称：3色パステルアート）というのは、代表で、心理カウンセラーの浜端望美氏が中心となって考案した絵の描き方になります。精神面のセラピーを目的とした絵で、この絵の講習は、3色パステルアートのインストラクターの資格を取得した人のみ可能という規定になっています。インストラクターは、3色パステルアートの描き方で、指定の画材（パステル）を使って絵の講習をしなければいけません。3色パステルアートで描いた絵は、とても綺麗な色で、誰にでも簡単に描ける為、居場所作りで講習するには、最適な絵画技法でした。最初の4年間は、簡単に絵が描けるので、みんなに喜ばれ、みんなで一緒に、3色パステルアートで描いた絵の展示会も開催しました。私は、誰にでも喜ばれる3色パステルアートに感動しながら、インストラクターとして活動を続けていました。

自由に描きたい！という子どもの声

そして、5年目に入った頃、寺子屋で絵を描く子どもたちから、「鉛筆や色鉛筆のみで描きたい」、「クレヨンやマジック、ボールペンで描きたい」、という声を度々、聞く様になりました。確かに、なぜ他の画材で絵を描いてはいけないのかを、小さい子たちに説明するのは難しく、「3色パステル画寺子屋だから、パステルを使わないとダメなんだよ」と毎回、伝える自分にも疲労していました。



二口さんと県展入賞作品

私自身にも変化が

そのような出来事が有った頃から、一つの画材や誰かが作った描き方で、今思えば、当たり前のことだったのですが、私自身の心を表現することは、本当に息苦しく難しいと感じました。多分、寺子屋に来ている子どもたちも同じように感じていたのかもしれない。長い間、インストラクターとしてパステルで、3色パステルアートの規定に沿った絵を描いてきた私にとっては、どうすればそのようなジレンマから抜けられるのか？本当に苦しんでいました。その様な悩みを抱えた私は、インストラクターを続けることに限界を感じてしまいました。寺子屋を続けて6年目になった時、絵を描くということについて学び直したいと思いました。

酒井重良先生との出会い

恥ずかしい気持ちを抑えて、思い切って、群馬平和美術展で出会った、平和展の事務局長をされている酒井重良先生に、絵を一から教えて欲しいと自分からお願いしました。先生は、私の急なお願いにも関わらず、

とてもお忙しい立場の方でいらっしゃるのに、快く、承諾してくださいました。講習は、群馬教育会館 3 階の和室で行われることになりました。先生から、公民館等の教室へ来ることも提案されたのですが、その絵画教室の皆さんについていく自信が無く、申し訳ない気持ちでしたが、お断りしました。その理由というのは、私は一般の美術の授業を受けたことが無かったからです。というのも、子どもの頃、私は色々な事情により、親たちの作っていたフリースクールで学んでいました。美術の時間の代わりに、自由画の時間というのがあり、その時間に絵を描いていました。もちろん、好きな画材で、好きなように、他の子どもたちとみんなで描いていました。

初めて取り組んだデッサン

話が長くなりましたが、デッサンというものを習ったこともありませんでした。そんな私に先生は、クロッキー帳と、先生ご自身が描いたデッサンの絵を見本として与えてくださいました。そしていっしょにデッサンをしながら、デッサンの方法を一から、教えてくださいました。

「デッサンというのは、どれだけ影を追えるか？という事だよ」という言葉が印象に残っています。デッサンは、今も苦手なので、勉強中です。

初めての日本画

先生からは、版画と日本画を学びましたが、今は主に、日本画を描いているため、日本画を学んだことをお伝えしていきたいと思います。日本画は、和紙を水張りした木のパネルに、念紙（チャコペーパー）でデッサンの絵を転写し、転写の上から墨で筆を使って骨描きをし、岩絵の具（色の有る鉱石を砕いた粉）や水干絵の具（土や胡粉に色を付けたもの）と膠やアートグルー等の糊剤を混ぜた独特な画材を使って、骨描きの上から彩色して描きます。私は 3 色パステル画寺子屋のみんなの展示会を開催中に、お祝いいただいた

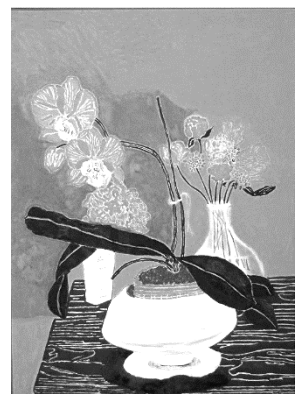
シクラメンの花と蘭の花を日本画で描いて、お花をいただいた時の嬉しかった思い出を絵で残すことにしました。シクラメンも蘭の絵も、途中で、何度も失敗し、やり直したりして先生の手を煩わせることも多くありましたが、先生は、気持ちよく支えてくださいました。蘭とシクラメンの絵は、同時に描いて、仕上げには半年程の時間がかかりました。

群馬県美術展に初出品

そして、2023 年の 11 月の群馬県美術展に先生と相談の上、シクラメンの花の絵を出品することにしました。もちろん私にとって初めての経験です。そして驚いたことにその結果は入選、入賞でした。悩みながら、大変な時間をかけたことは事実ですが、入選も入賞も、私だけの力ではなく、先生が丁寧に絵を教えてくださいましたことや、周りで支えてくれた家族や、搬入出を手助けしてくれた友人の支えがあったから、得られた結果だと思いません。現在も、日本画の勉強不足に悩み、今は、酒井先生が講習している前橋の公民館の日本画教室で学ばせていただいています。

変わっていく私

そのような中で、3 色パステル画寺子屋という名前を改める決心ができました。決心と同時に、3 色パステルアートも退会し、インストラクターも辞めました。今は、自由画ひろば寺子屋になった居場所で、何にも縛られることなく、子どもや大人の方たちと自由に楽しく絵を描いていきたいと思っています。酒井先生と出会い、絵を学ばせていただいたことで、心の中で悩んでいたことが、少しずつ解放されていく感じがしています。酒井先生や私を支えてくださったみなさま、本当にどうもありがとうございます。



近作「蘭の花」